



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax " 8-2312
〒684-0100
知夫村 1053-1
[HP] https://www.chibumura.ed.jp/

三学期を迎えて

校長 熊本直宏

みんなが笑顔に！

言葉大切に、よさを認め合いながら

新年あけましておめでとうございます。五十六年ぶりに東京オリンピックが開催される記憶に残る一年が、皆様にとって素晴らしい一年となるようお願いいたします。五十一日間の三学期がスタートしました。短い日数ですが、一年の締めくくりの大切な三学期です。児童生徒、教職員と力を合わせながら過ごしていきたいと思っております。

始業式で子ども達に、「みんなが笑顔に！」なる三学期にして欲しいと話しました。二学期と同じテーマを続けることで、友達を思いやる言葉遣いや互いのよさを認め合うこと、自分で考え行動する姿を求めながら、一人一人の笑顔が輝く三学期にしたいと思っております。自立の早い知夫の子ども達に、自ら考え動く主体性と人間関係形成の力を付けていきたいと考えています。そのため次のようなことをポイントとして進めていきたいと思っております。

○友達を思いやる言葉遣いの取組みを継続し、日常化・行動化させる。

言葉遣いは、本校の課題であることから、二期最優先課題として学校・家庭との連携を意識して取組みました。課題はあるものの、相手を考えて言葉、敬語等、子ども達の言葉遣いに対する意識は高まりつつあります。子ども達の意識が高まり伸びつつある時に、そこからさらに一押しし、日常化・行動化させることをめざしたいと思っております。学級目標の取組みや生徒指導等の保護者啓発に力を入れることで、互いを思いやる言葉遣いを大

- 【学校教育目標】**
未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する
- 【めざす子ども像】**
・自ら学ぶ子ども
・共に生きる子ども
・たくましく
生きる子ども
・ふるさとを
愛する子ども

切に「みんなが笑顔に！」なる学校を実現していきたいと思っております。

○互いのよさががんばりを認め合う活動を活発にし、自己有用感を高める。

アンケートの結果から「勉強や運動、係活動等でクラスの友達から認められている」の数値が低く、自己有用感・承認欲求に課題が見られています。自分のよさを自覚し、自分を大切にすることができ、周りの人を同じように大切にすることができると思っています。互いのよさを認め合う活動を活発にすることで、子ども達の自己有用感を高めたいと思っております。

○子どもに任せる場面を増やし、自主性を高める。

知夫の子ども達の自立を考えると、自ら動く主体性は欠かせません。あまり周りの大人が手をかけすぎると自立を阻むことにもつながります。二学期、生徒会の挨拶運動や清掃活動に主体的に取り組むことで、生き生きとした子ども達の姿が見られました。子どもに任せる場づくりを増やしながらか、主体的に行動できる力を伸ばしたいと思っております。

○授業づくりとふるまいを両輪に

授業づくりとふるまいは、本校の取組みの土台となるものです。授業を大切にしながら、一年間の教科学力をしっかりと身に付けていくこと。あいさつ・言葉・掃除・時間を守る・校歌、ふるまい隠岐一番をめざすことで、子ども達の物事に取組む姿勢を高めていきたいと思っております。

保護者・地域・関係機関の皆様と連携をしながら、着実に進めていきたいと思っておりますので今学期もご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。最後になります。子ども達の様子は日頃から公開していますので、参観日以外の日でも都合がつくところで気軽に足を運んでいただければと思います。(その折には、職員室に一声おかけください)

『邑南町で泊まろう！』

一月十六日から十九日にかけて「邑南町で泊まろう(村教育委員会事業)」に参加して来ました。出発前には、スキー場の閉鎖もあり、スキー体験ができないと残念な様子の子ども達でした。しかし、日頃の行いがよかったせいか、出発数日前に積雪があり、無事スキー体験もできることになり出発しました。邑南町では民泊体験を中心とした活動を体験しました。スキーの体験は、五年生三人という少ない人数での体験になりました。初めてのスキーで、最初は苦戦している様子でしたが二日目には滑れるようになりました。知夫ではできない貴重な経験に子ども達は大満足だったと思います。また、中心の活動となった民泊では、恥ずかしさと緊張もあり、なかなか距離を縮めることが難しかった子ども達ですが、民泊先の方と交流する中で感謝の気持ちを伝えたり、自分から進んで仕事をしたりという姿が見られました。最終日の恩返しタイムでは、肩たたき・掃除など自分で考えた恩返しで感謝の気持ちを伝えることができました。四日間学んだことを学校生活や家庭生活でも発揮してほしいと思っております。

〔小学部五・六年担任〕



小学部五年 女子

一月十六日～十九日まで「邑南町で泊まろう」がありました。民泊やスキー体験をしました。わたしの民泊先は「にいやさん」でした。一日目は、対面式がありました。ふるさと学習発表会の畜産業のことを紹介しました。二日目は、ふれあいタイムがありました。ハンザケ自然館に連れて行ってくれました。オオサンショウウオがたくさんいました。小さいのも大きいのもかわいかったです。午後からスキーもしました。最初はスルスルすべってこわかったです。でも、最後は少しすべれるようになりました。三日目は、一日中スキーでした。ススキーの時間は、あつという間でした。四日目は、恩返しタイムがありました。かたたたきやトランプをしました。かたたたきは、気持ちよさそうでした。わたしは、初めての邑南町で民泊先の方にいやすとの交流が楽しかったです。来年行けたら、もっと民泊先の方となかよくなりたいです。

習字の学習より 『講師の先生、ありがとうございました』

今年度、中学部の書き初めの学習には、講師に小新和美さんと崎慎吾さんをお招きしてご指導いただきました。お二人には、行書の特徴や書き方を生徒たち一人一人に丁寧にアドバイスしていただきました。生徒たちも積極的に講師の先生方に聞きに行ったり、納得いくまで何枚も書き直したりと集中して一生懸命取り組みとても良い作品が完成しました。講師のお二人にはお忙しい中を来ていただき、本当にありがとうございました。

〔中学部国語科担当〕

小学部五年 男子
邑南町では、「自立」「感謝」「協力」を頑張りました。自立は、自分のことは、自分でするということを頑張りました。感謝では、挨拶や返事をして感謝の気持ちを伝えました。協力では、民泊先の人と一緒にそうじをすることに毎日気を付けました。おばあちゃんとは、とっても優しくてぼくの鼻血を心配してくれました。次に行くときも、また同じ家に泊まりたいです。



令和元年度 学校教育活動に対するアンケート集計（保護者）

知夫村立知夫小中学校

このアンケートは、今年度、知夫小中学校が「学校教育目標：未来を切り拓く、心豊かでたくましい知夫の子どもを育成する」や「めざす子ども像：自ら学ぶ子ども（創造）・共に生きる子ども（共生）・たくましく生きる子ども（自立）・ふるさとを愛する子ども（愛郷）」を実現するために実施してきた学校教育活動について、保護者の皆様の率直なご意見をいただくために行います。アンケート結果を参考に、来年度に向けての話し合いを行い、より良い学校づくりにつなげていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。設問1～6は、それぞれのお子様の家での様子についてお答えください。設問7～22は、長子のお子様のアンケート用紙のみお答えください。

なお、答えにくい項目については答えられる範囲内で結構です。

A: そう思う B: まあまあそう思う C: あまりそう思わない D: そうは思わない ★: わからない				
A: 4点	B: 3点	C: 2点	D: 1点	★: 0点(母数より除く)
平均 3.1以上	→	おおむねよい		
平均 3.0	→	まあよい		
平均 2.6以上2.9以下	→	あまりよくない		
平均 2.5以下	→	よくない		

令和元年
12月実施
集計: 22/27
(回収率81.5%)

No.	項 目	A	B	C	D	?	R1	H30
1	子どもは、学校に喜んで通っている。	16	10	2	1		3.4	3.2
2	子どもは、元気よく挨拶をしたり、場に応じた適切な言葉遣いをしたりしている。	8	16	4	1		3.1	3.2
3	子どもは、課外活動（全随岐陸上（小中）、島前陸上（小）や全随岐駅伝（中）、バスケット大会（小）や部活動（中）等）に積極的に参加している。	17	10			2	3.6	3.2
4	子どもは、家庭学習の時間を確保し、学習習慣が定着している。	12	9	6	1	1	3.1	2.7
5	子どもは、学校で配布された文書をきちんと渡している。	12	10	5	1	1	3.2	3.0
6	子どもは、テレビやマンガ、ゲームやインターネットに対して節制しようとしている。	6	12	9	2		2.8	2.8
7	学校は、「学校教育目標」や「めざす子ども像」の実現を目指し、特色ある教育活動を行っている。	8	7	4	1	2	3.1	3.5
8	学校は、わかりやすい授業やトライタイム（小）・チャレンジタイム（中）を行い、成果を上げている。	7	5	4	1	5	3.1	3.2
9	学校は、子どものまちがった言動を適切に指導している。	5	10	2	1	4	3.1	2.8
10	学校は、子どものことについての相談について、家庭訪問や個人面談・三者面談等で適切に応じている。	8	7	3		4	3.3	3.5
11	学校は、課外活動（全随岐陸上（小中）、島前陸上（小）や全随岐駅伝（中）、バスケット大会（小）や部活動（中）等）に対して適切に指導している。	13	5	1		3	3.6	3.5
12	学校は、家庭学習の習慣づくりに対して適切に指導している。	10	6	2		4	3.4	3.2
13	学校は、朝読書をはじめ、読書習慣が身につくよう指導している。	9	7	2		4	3.4	3.2
14	学校は、テレビやマンガ、ゲームやインターネットの時間に対して適切に指導している。	6	8	3	1	4	3.1	3.3
15	学校は、校報や学級だより、懇談や面談等によって、教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている。	8	8	4		2	3.2	3.4
16	学校は、来校しやすい雰囲気がある。	12	6	2		2	3.5	3.4
17	学校は、PTA活動や参観日等をおとして、保護者や地域との連携・協力を大切にしている。	9	7	2	1	3	3.3	3.7
18	学校は、校内でのけがや体調不良に対して、適切に対応している。	13	5	1	1	2	3.5	3.5
19	学校は、子ども達の事故防止や防犯対策等の安全教育に対して適切に取り組んでいる。	9	7		1	5	3.4	3.3
20	学校の施設・設備等の環境面は、満足できる状態である。	11	5	4	1	1	3.2	3.5
21	家庭では、「早寝・早起き・朝ご飯」等、子どもの規則正しい生活習慣に気を配っている。	12	8	2			3.5	3.5
22	家庭では、テレビやマンガ、ゲームやインターネットの時間、家庭学習の時間等について気を配っている。	7	14	1			3.0	3.0

学校評価の結果より

2学期末に学校評価を行いました。保護者や学校関係者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、ありがとうございました。概ね良い結果が見られましたが、特に、保護者の皆様からは「学習習慣の定着化」について、また学校評議員や民生委員の皆様からは「ふるさと教育」等について高評価をいただきました。一方、教職員による自己評価と合わせて、次のようなことが課題としてあげられました。

①学力の向上

家庭での学習習慣の定着化が見られる一方、学校では「自主的に学ぶ姿勢」に課題があると捉えています。小中連携による授業研究をはじめ、トライタイムや学力パワーアップの取り組み等の充実に一層力を入れるとともに、夢や希望、進路を意識した学校生活を送れるようキャリア教育に力を入れていきます。

②ふるまいの向上

2学期から全校で取り組んでいる「言葉遣い」については子どもたちの意識が高まっています。引き続き、良い状況へと高まるよう、家庭との連携を大切にしながら指導を進めていきます。

③連携・情報発信の充実

学校では、メディアの指導や情報発信に努めておりますが、評価の数値が伸び悩んでいる点に課題を感じています。今後も、個別指導の充実や家庭との連携による指導を進めていきます。

その他、皆様からたくさんの貴重なご意見をいただきました。一つ一つをしっかりと受け止め、よりよい学校を目指して全教職員で指導に取り組んでまいります。保護者や地域の皆様の温かいご指導をよろしくお願いいたします。

学校の情報については、ホームページにおいて校報やブログを掲載しています。ぜひご覧ください。

小中一貫校の強みをいかして

小学部の複式教育を推進していくためには、様々な工夫・アイデアが必要となります。複式教育のメリットについて、お伝えします。

本校の児童生徒数は、小学部17名、中学部19名の9学年で36名という構成です。島根県の学級編成の規定により、小学部は完全複式学級ですが、中学部はたとえ学年人数が一人であっても複式学級にはなりません。従って、複式による学習を経験することができるのは小学部（小学校期）だけということになります。

一般に複式でのわたり（2学年同時学習）という“指導が難しい・2学年分の授業の準備をする時間がない・子どもの意見が限られる”と大変な一面ばかりが取り上げられ、複式での学習に対するイメージはマイナスであることが多いのかもしれませんが、しかし、大変なことをこなしながら毎日の授業に取り組むためには、そのための工夫が必要となり、アイデアを生み出そうとする思考が働きます。具体例を挙げると…

①学習課題を工夫する

授業の肝は学習課題であるという認識のもと、授業者が与える学習課題

ではなく、子ども達とつくり出す学習課題を目指しています。よりよい学習課題がよりよい授業づくりへと繋げられることを意識しながら、子ども達の中にスッと入っていく学習課題の設定について、日々の授業の中で検討しています。

②子どもの思考を可視化する

わたりの授業で最も労力を費やすのは、2学年分の子ども達の思考を一人の授業者でどう把握するかということです。そのため、子ども達の思考を可視化するツール（ホワイトボード・ミニ黒板・短冊など）を活用するということが不可欠になります。どの学習場面でのツールを活用するのか、よりよいものを選択して、子ども達の思考のゆさぶりと思考の整理に努めています。

③学習内容をスリム化する

1時間の授業の中で、2学年分の内容を組み合わせるためには、学習内容のスリム化を図らないと時間的な厳しさや内容を消化しきれないという課題が生じやすくなります。そのため、学習内容のポイントを見極めてスリム化を図ることで、授業者は指導すべき内容をしっかりおさえられるように、子ども達は1時間での学びをすっきり整理できるように、日々の授業での積み重ねを大事にしています。

ここに挙げたことは、複式の授業だから大事というものではなく、どの授業でも大事にしたいことです。複式の授業という視点でこの大事にしたいことへの意識が高められるということは、それは複式の授業の強みです。更に、それを中学部の授業へと繋げられるのは知夫小中学校の強みです。

〔研究主任〕



※2月6日には、「複式教育推進指定事業研究大会」を予定しており、5・6年国語の「書くこと」に重点を置いた授業を公開します。

表彰く各種コンクール

島根県版画展

〔優良賞〕

小学部一年 女子
二年 女子

「新事務職員の紹介」

昨年二学期を終え、事務職員の宮野さんが産休に入りました。元気な赤ちゃんの誕生を心よりお祈りしています。この三学期からは、後任として野村さんが着任しましたので、ご紹介します。

～「挨拶」～ 事務主事

一月から事務で働くことになりました。島前高校を卒業してから、いつか知夫に住んでみたい、働きたいと思っていたので、一つ夢が叶いとても嬉しく思っています。初めての経験で不安なこともありますが、楽しんでいきます。初めまして、よろしくお願いします。